

平成 22 年度当初予算を編成

「夢と感動のテーマシティにらさき」の実現を目指して

葦崎市サッカーミュージアム
葦崎市民ギャラリー企画展

平成 22 年度
予算
ここに重点!!
※() 内は予算額

市民交流センターイメージ

子育て

子育てをする祖父母への
支援 **新規**

父子家庭等支援助成事業が児童扶養手当制度として拡大されるにあたり、この制度の対象外とされる児童を養育している祖父母に対して、児童扶養手当と同様の第一子・月額1万円、第二子以降・同5千円の市独自の祖父母孫等応援助成金の支給を行います。
(900千円)

新

	単位(千円)
子ども医療費助成事業	94,580
ひとり親家庭医療費助成事業	12,188
地域子育て支援・児童センター運営事業	46,202
児童扶養手当施行事業	115,545
子供をすこやかに産み育てる環境づくり事業	22,590
子ども手当施行事業(事務費含む)	570,641
保育園統合推進事業	567
保育所運営事業	585,640
私立幼稚園奨励補助事業	30,216
こころのプロジェクト「夢の教室」事業	1,198
小学校・中学校運営事業	92,021
地域に根ざした学校給食推進事業	326
グリーンロッジ管理事業	2,391

将来を担う子どもをのびのび育むまちづくり

平成22年度予算が、市議会3月定例会で議決されました。一般会計予算総額は126億2千7百万円で、昨年度と比べ、3.3パーセント増加しました。市内主要企業のゆるやかな業績回復を受けた法人市民税の増収等と、徹底したコスト削減による、有効かつ重点的な財源の活用に努め、「第6次長期総合計画」の2年目として、子育て・教育・環境を中心に重点を置いた予算編成として、市民協働によるまちづくりの推進に積極的に取り組んでいきます。以下、予算の主な内容についてご紹介します。



保育園再編構想計画の推進 継続

保育園統合構想検討委員会の提言を踏まえ、保育ニーズの多様化に対応し、保育サービスの質的向上を図るため、効率的で効果的な保育園の再編構想計画を市民の皆さまとの協働により推進していきます。(567千円)

発達障害児を持つ家庭への専門的支援 新規

市医師会や管内小児科医の協力を得て、保護者の希望に応じて、小児科医や心理相談員等の専門家による療養相談を開催し、発達障害児とその保護者への支援体制の充実を図ります。(465千円)

心地よい定住環境のあるまちづくり

単位(千円)

浄化槽設置促進事業	29,946
庁舎太陽光発電推進事業	49,945
峡北広域行政事務組合負担金(ごみ・し尿処理)	590,890
エコハウス普及促進事業	7,000
農村地域新エネルギー利活用推進事業	26,250
上ノ山・穂坂地区農工団地アクセス道路整備事業	124,330
市営墓地拡張事業	10,198
木造住宅耐震改修事業	16,880
中央公園管理事業	12,164
上水道事業	1,199,180
公共下水道事業	1,172,137
市民バス委託運行事業	40,119
市単独道路整備事業費	135,089

教育

私立幼稚園の就園補助 拡充

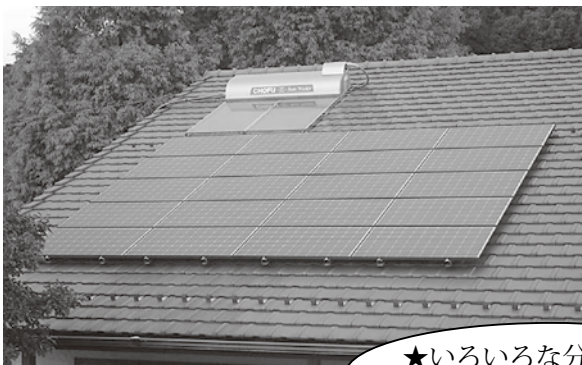
保護者世帯の経済的負担を軽減し幼児教育の充実を図るため、補助額を国の限度額まで引き上げます。最大で年額約24万円の増額となり、県内でもトップクラスの支援となります。(30,216千円)



環境

エコハウス設備を設置する一般家庭への支援 新規

太陽光発電システムをはじめエコキュート、ペレットストーブ等の自然エネルギーを利用したエコハウス設備の設置に2万円から5万円の助成を行い、一般家庭への自然エネルギーの普及促進を図ります。
※10ページに助成制度の詳細を掲載しています。(7,000千円)



★いろいろな分野での環境支援を行います！

公共施設への太陽光発電システム設置 新規

市役所屋上に30kwの太陽光発電設備を設置し、庁舎管理コストの節減とCO2削減による地球温暖化防止対策に取り組みます。また、庁舎入口に発電量や発電システムの表示ディスプレイの設置を行い、市民への環境問題に対する意識向上や家庭及び企業への太陽光発電導入促進の啓発を行います。(49,945千円)

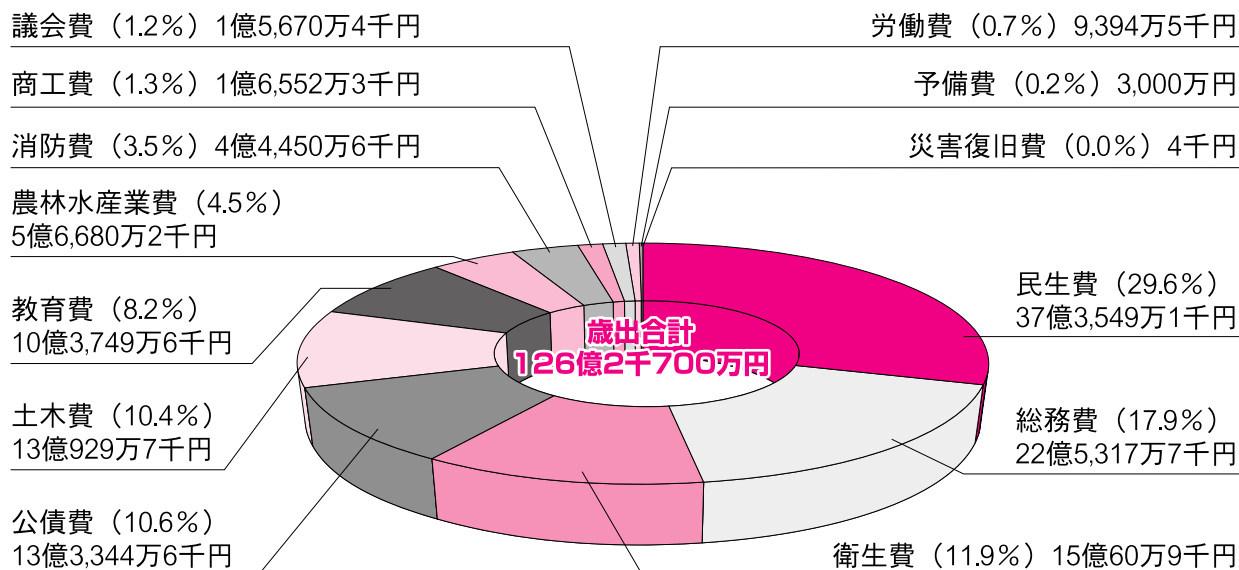
農業用水を利用した小水力発電・エネルギー教育の推進 新規

国の農村地域新エネルギー利活用推進事業の採択を受け、徳島堰での小水力発電に取り組み、自然エネルギーの有効活用と学校及び地域の連携による環境教育を促進します。(26,250千円)



ペレットストーブ

22 年度当初予算（歳出）



健康

総合検診の特定健康
診査項目を追加 拡充

心疾患等の早期発見のため「心電図検査」をはじめ「眼底検査」、「貧血検査」の3項目をセットで導入し、受診体制の充実を図ります。
(6,579千円)

誰もが安心して暮らせる
まちづくり

単位(千円)	
荏崎市立病院運営事業費	2,393,432
みんなで支える地域福祉推進事業	24,045
老人保護措置事業	77,337
重度心身障害者医療費助成事業	119,480
障害者自立支援給付費等負担事業	445,198
峡北広域行政事務組合負担金(常備消防)	328,165
国民健康保険運営事業費	2,974,703
後期高齢者医療保険運営事業費	242,306
介護保険運営事業費	1,714,854
犯罪被害者等支援事業	1,000
生活保護施行事業	262,238
高齢者労働能力活用事業	14,250
緊急雇用対策事業	71,105

魅力あふれるまちづくり

単位(千円)	
泉宮畑地帯総合土地改良事業	119,925
小土地改良事業	86,789
塩川地区圃場整備事業	52,598
生産調整推進対策補助事業	26,000
中山間地域耕作放棄地対策事業	13,742
機構造林事業	4,700
穴山町ふれあいホール運営事業	937
まちなか活性化推進事業	6,350
企業誘致促進事業	10,240
観光振興事業	12,303
武田の里まつり補助事業	14,780
地区公民館運営事業	23,233
ドリームサッカー開催事業	813
文化ホール管理運営事業	99,800
美術館管理運営事業	20,204
史跡新府城跡環境整備事業	24,742
歴史と景観をおりなす里づくり事業	2,706

★防災・自助の安心・安全
メニューを拡大しました！

雇用

休業者に対する所得補償支援 継続

一定の要件を満たす市内企業が行う休業補償に対し、市単独の上乗せ助成(中小企業以外500円/一人日、中小企業1,000円/一人日)を行い、労働者の雇用維持安定を図ります。
(2,700千円)

安心・安全

木造住宅耐震化の支援 拡充

大規模地震へ備え、耐震シエルトの設置など補助対象メニュー及び高齢者等補助対象者の拡大により、民間木造住宅の建替を支援し、住環境の改善を図ります。
(16,880千円)

22 年度当初予算（歳入）

分担金及び負担金（1.3%）1億6,742万9千円

地方譲与税（1.0%）1億3,000万円

使用料及び手数料（2.3%）2億9,189万4千円

諸収入（1.0%）1億2,757万6千円

地方消費税交付金（2.5%）3億1,000万円

その他（1.6%）1億9,518万4千円

繰入金（4.6%）
5億8,434万1千円県支出金（6.7%）
8億4,092万円国庫支出金（10.9%）
13億7,768万8千円

市債（11.0%）13億8,740万円

市税（35.5%）
44億8,756万8千円

地方交付税（21.6%）27億2,700万円

歳入合計
126億2千700万円

企業誘致

上ノ山・穂坂地区工業団地の
造成工事に着手 継続

中央道荊崎インターチェンジ西側に
8・2ha／3区画の工業団地の年度内の完
成を目指し、土地開発公社による造成本
工事に着手します。また関東近県の製造業
を中心にPRパンフレットの発送を行うな
ど、優良企業の誘致活動を積極的に展開し
ていきます。（637、111千円）

観光

イメージキャラクター

「ニール」によるPR活動 継続

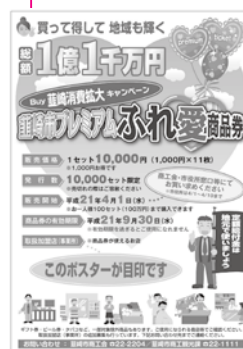
昨年、刊行された荊崎市の魅力
がつまった創作絵本「ニール」か
ら誕生した本市のイメージキャ
ラクター「ニール」を荊崎駅前
の街路灯の広告バーや市民バス・
公用車の車体を活用しPRを行
います。また、動画サイトYou
Tubeや市のホームページに「ニ
ール」が本市のメッセンジャーと
して登場。全国に荊崎市をアピ
ルし、まちの活性化を図ります。
（3、000千円）

★6月頃の
発売を予定！

商業

荊崎市プレミアム「ふれ愛商品券」
第二弾発行 継続

『荊崎消費拡大キャンペーン』と題して、
昨年、消費者をはじめ市内商工業者の皆さ
まからご好評をいただきました「ふれ愛商
品券」を、市内販売店と共同で5千セット・
総額5千5百万円分発行し、地元消費の拡
大と地域経済の活性化を図ります。
（2、500千円）



■ 葦崎市サッカーのまち推進事業

22年度を「サッカーのまち元年」と位置づけ、山梨学院大学サッカー部総監督の横森巧氏らをサッカーのまちづくりプロジェクトの一員として迎え、技術レベルの向上と青少年の健全育成、更には県内外との交流事業などを展開していきます。また、市内全校の小学五年生を対象に、現役のJリーグ選手やなでしこジャパンの選手が「夢講師」として教壇に立ち、自らの体験を基に語る「こころのプロジェクト」「夢教室」を開催し、



新

自立心と社会性に富んだ元気な子ども
の育成を図ります。さらに、30周
年の節目の年となる「武田の里サッ
カーフェスティバル」の記念大会や
記念イベントとして元全日本代表選
手等によるドリームサッカーを10月
10日・11日に開催し、まち全体がサ
ッカーで盛り上がるような新たなま
ちづくり事業の推進を図ります。

(13、210千円)



（仮称）**葦崎市民交流センター**
整備事業 継続

JR 荊崎駅前前の旧ルネスを改修し、図書館機能をはじめ公民館、子育て支援センター機能の集約に加え、小林一三、保阪嘉内といった郷土の偉人コーナーやサッカーミュージアムなど本市ならではのポテンシャルを活かした市民の主体的な企画・運営による「市民力」を発揮した機能を設け、新たなまちづくり活動の拠点として整備します。

(652,720千円)

まちづくり事業 継続

県立美術館で10月30日～11月30日に開催される「小林一三の世界展」の機会を通じ多くの市民に「一三翁の生涯と業績、コレクションに触れていただけるよう期間中（土日祝）、無料市民バスを運行します。また、各地区公民館、学校へ「一三展の図録・子ども用冊子の配布を行い、郷土の偉人に学ぶまちづくりの機運醸成と郷土愛をはぐくむ教育の推進を図ります。」
 （2、185千円）

新 コミュニティ

地区活動の最も重要な基盤である自治会や地域防災拠点である地区集会場、公民館等が行う地上デジタルテレビの導入やアンテナの整備、防災備品等の整備に対し一地区あたり10万円を上限に交付し、地域コミュニティ活動を支援します。

(10,000千円)

A simple line drawing of a multi-story building with several windows. On the roof, there is a television set and a long antenna pole extending upwards.

小林家中宿分家（ふるさと学習散歩の模様）

長期
(まちづくり)
アンケート
の結果

ご協力ありがとうございました。

韮崎市のまちづくりに関するアンケート結果を報告します。

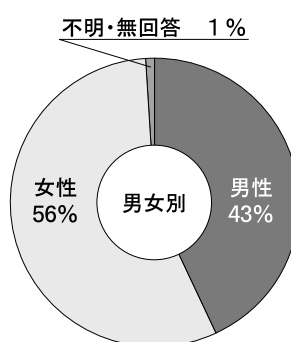
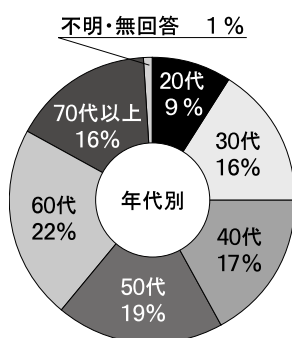
皆さんのご協力で昨年11月～12月にかけて実施した「まちづくりに関するアンケート」の結果がまとまりましたので、概要をご報告します。なお、詳細は市役所行政資料コーナー及び市HPをご覧ください。

■調査の概要

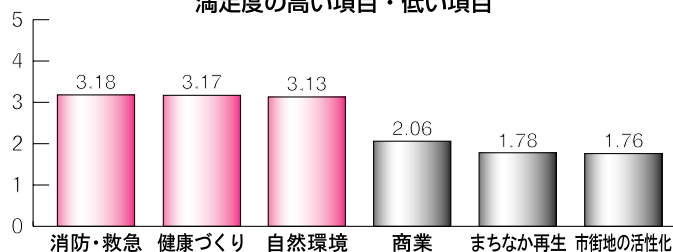
市内在住の20歳以上の市民2千人（無作為抽出）を対象に実施し、回収数は567通、回収率は28・4％でした。

■回答者の状況

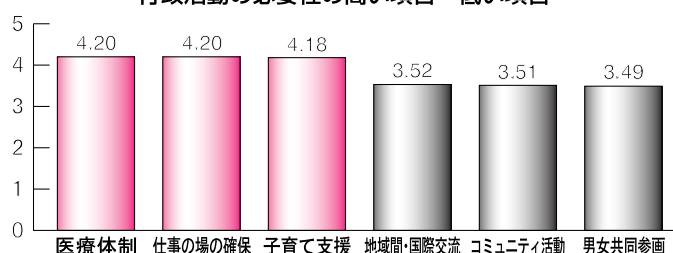
回答者の内訳は男性243人、女性320人でした。送付数に対しての割合は、男性24・0％、女性32・4％でした。年代では、60代の回答者が多く、送付数に対しての割合は、70歳以上が最も高く35・8％、60代が35・0％、50代が28・8％で20代では16・3％と低い結果となりました。



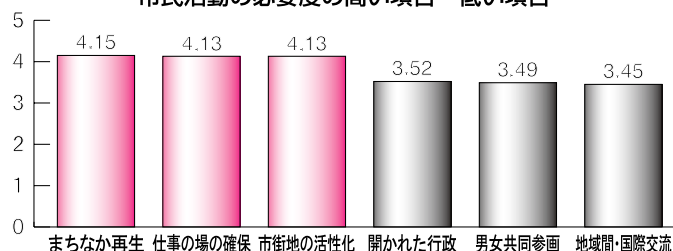
満足度の高い項目・低い項目



行政活動の必要性の高い項目・低い項目



市民活動の必要度の高い項目・低い項目



Q1 市民の満足度の高い項目は？
A. 第一位「消防・救急」、第二位「健康づくり」、第三位「自然環境」となっています。



Q2 行政（市）が特に力を入れるべきと考えることは？
A. 第一位「医療体制」、第二位「仕事の場の確保」、第三位「子育て支援」となっています。



Q3 市民の活動が特に必要だと考えることは？
A. 第一位「まちなか再生」、第二位「仕事の場の確保」、第三位「市街地の活性化」となっています。



Q4 市民と行政がともに取り組むべきことは？
A. 「仕事の場の確保」、「子育て支援」、「まちなか再生」、などとなっています。